

音楽分野に限らず、
たくさんの世代の中に
子どもがいることは、
とても大事なのでは
ないかと思えます。

吉川 和夫 先生

東京藝術大学大学院修了。NHKオーディオドラマ『ソフィーの世界』の音楽で放送文化基金賞(音楽・音声・音響効果賞)受賞。室内楽、合唱劇等を中心に作曲活動を展開。合唱劇「ボラーノの広場」「銀河鉄道の夜」、混声合唱と和太鼓のための組曲「さくらはなびら」などがある。2016年4月より宮城教育大学附属小学校校長。



「じゃがいも」の公演は年1回、11月か12月に山形でやって、1月に東京公演もあります。

その「じゃがいも」さんと一緒に作った宮沢賢治の曲を中心に「仙台クラシックフェスティバル(せんくら)」でやっているのが「せんくら・うた劇場」です。4人の声楽家の方と、宮教の倉戸テル先生のピアノとで「読み聞かせ」ではなくて大人向けの「語り聞かせ」、「歌い聞かせ」のようなコンサートです。

先生は宮沢賢治がお好きなんですね。

賢治の「ピテリアン大祭」を作品化した「声明と狂言の語り」のための「論議ピテリアン大祭」が一番最初にしっかり取り組んだものだと思います。昔から宮沢賢治が好きだったかと言われると、読んでも難しくてよくわからなかったんです。ただ、賢治はとても音楽が好きだったし、彼は声を出しながら書いていたような気がします。原稿用紙に目だけで描いているのではなくて、音で書いている。擬音も多く、言葉の流れ方が、私にとって賢治は音楽を付けやすい、自然に書かせてもらえる感じがします。

先生が音楽を始めたきっかけは何でしょうか。

親が長く続けられるような習い事をやらせたいと、幼稚園くらいからヴァイオリンで育ちました。4年生の時に名古屋放送児童管弦楽団(現・NHK名古屋青少年交響楽団)に入り、ここは子どもの音楽番組を作っていたので毎週収録があって、遊び場が名古屋のNHKでした。中学生や高校生、お世話してくれる先生や父兄がいて、家族とは違う集団のなかで育ったのはすごく良かったなと思います。「じゃがいも」もですが、いたずらをするとよその大人が叱ってくれるんです。音楽分野に限らず、そういうたくさんの世代の中に子どもがいることは、とても大事なのではないかと思います。

特に音楽が好きで家族というわけではありませんでしたが、美術の展覧会にはよく連れて行かれました。子どもだから絵の良さなどはわからなかったですけど、そういうところに行く習慣を付けてくれました。

言葉と音楽が紡ぐ物語の 世界を旅する地図を 探しに行こう。

子どもたちのために何か面白いこと、
ためになることをやるのは、宮城教育大学の得意とするところ。
音楽を軸に、学生とプロの音楽家と子どもたちの
懸け橋になっている先生にお話をうかがってきました。

先生の授業・研究内容について教えてください。

音楽教育講座で作曲と音楽理論を教えています。音楽理論は音楽の文法のようなもの。音楽を勉強する人は基礎基本として知っておいてほしいものです。それと学生には「作曲をする」楽しさと難しさを感じてほしいと思っています。

大学以外でも、いろいろな活躍をされています。

宮城教育大学は仙台市天文台と平成21年7月に協定を締結しており、先月もロビーコンサートを行いました。土佐台長がとても音楽がお好きで詳しく、星にまつわるコンサートをすぐにやりましょうとおっしゃって、9月と12月の年2回で今回で18回目になります。毎回必ず星や天体にまつわる曲を入れています。音楽科の学生や卒業生を中心に、今回は合唱で宮沢賢治の作品を歌いました。来場者の方々に生演奏を楽しんでいただくと同時に、人前で演奏することはとても勉強になるので、学生たちにとっていい機会をいただいています。

東北に縁のあるピアニストの小山実稚恵さんが一昨年から始めた「こどもの夢ひろばボレロ〜つながる・集まる・羽ばたく〜」のお手伝いもしています。これは子どものためのオーケ

ストラ演奏会を軸に、いろいろ遊べるイベントを用意しています。できるだけ一流のものを体験させたいという小山さんのポリシーで、天文台をお願いしてミニプラネタリウムを持ってきたり、書家の方に書道パフォーマンスをしてもらったりしました。子どもと一緒に何か面白いことをやるというのは宮教の専門なので、先生や学生たちにも協力してもらい、昨年は宮教のオケが山田和樹さん指揮で演奏しました。小山さんはこれからもずっと続けていこうと計画していらっしゃいます。

あとは山形市の「合唱団じゃがいも」。ここは1974年創設で歴史が長いのですが、メンバー同士が結婚して子どもが生まれて、ご夫婦の練習について来た子どもたち「子じゃが」が一緒に歌うようになった変わった合唱団です。「孫じゃが」も加わって三世代で参加されているご家族もいます。一緒に歌うといってもそういう曲はあまりないので、作曲家の林光さんをお願いしました。いろんな世代が関わられるものということで、宮沢賢治の流れができました。いろんな年齢層の声が混じっているからすごく色彩的というか、歌・語り・動き・音楽を組み合わせた合唱劇です。昨年やった「鹿踊りのはじまり」は林光さんの曲ですが、一昨年は私の「オツベルと象」でした。